

**1 学校教育目標**

- 思いやりのある子
- 深く考える子
- 進んで実行する子

**2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像**

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が安心して学び、安全に楽しく勉強や生活ができる学校</li> <li>・教職員がチームとしての力を発揮し、教育目標の達成に燃える学校</li> <li>・児童・保護者・地域社会から信頼される開かれた学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「いのちかがやく西一っ子」</li> <li>・あふれる意欲と基礎的な学力を身に付けた子ども</li> <li>・心身ともに健康で、心豊かな子ども</li> <li>・安全への意識をもち、たくましく生きる子ども</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Mission(使命) Vision(展望) Passion(情熱)をもった教師であれ。</li> <li>・専門職としての見識と、豊かな感性や人間性を身につけた教師</li> <li>・子どもを心から愛し、保護者・地域社会とともに子どもの成長を喜びとする教師</li> <li>・チーム西一小としての責任感、協調性を有し、互いに資質・能力を高めあう教師</li> </ul>

**3 学校の現状及び前年度の成果と課題**

## ◎学校の現状

- ・児童数はおよそ400名程度であるが、欠席が一日平均10名程度と少なく児童は明るく元気である。
- ・あいさつを進んでできる児童が多く、人なつこい面と、恥ずかしがりやの両面をもつ。
- ・児童は素直に学習や運動などの活動に取り組むが欲が低くある程度で満足してしまう児童も多い。
- ・委員会活動など自分の仕事を一生懸命にやろうとする児童が多い。
- ・運動会や学芸会など行事内容の質が高く、保護者、地域からの高い評価を受けている。
- ・PTA、地域が協力的で、学校に対する期待も大きい。

## ◎前年度の成果

「いのち輝く西一っ子」を合い言葉に、知・徳・体調和のとれた児童の育成に努めた。学力向上では、小中連携を継続して行い、各分科会の中で、「足立スタンダード」の実践を行うと共に他校の状況を学んだ。また、パソコンや電子黒板等を活用した授業を積極的に展開した。教師の資質も向上し自信をもって指導にあたることができるようになった。加えて生命尊重の理念を生かした安全教育等の特色ある教育活動を推進し、全学年が学年に応じた防災教育を実践し、児童の安全への意識を高めてきている。また、学校とPTA、地域安全ボランティアが連携し、登校指導やあいさつ運動を年間通して実施するとともに、児童の登下校の安全を確保するとともに交通安全への意識を高めた。

## ◎課題

- ・区学力調査では、通過率は72%と目標を下回ったが、これまで行ってきた基礎学力の定着に向けた補習授業等をさらに積極的に実施していく必要がある。これまで学力向上に向けて様々な対策をとってきたが、効果があった年度となかった年度が繰り返されてきた。区の学力調査でも安定した通過率を目指して今後さらなる取り組みが必要である。家庭での基本的な生活習慣（早起き・早寝・朝ごはん）が確立されていない児童が、特に早寝で20%程度を占めている。これらの課題が解決されれば、学習意欲や学力もより向上すると考えられるが、困難な家庭への啓発をどのようにしていくかが課題である。
- ・運動会や展覧会などの様々な行事への取り組みは、教師の熱心な指導の下に質の高い内容をみせているが、児童の主體的な活動のもとに行事が進められることが課題である。教室内での係や当番活動でも教師に指示されれば行うことができるが、自ら気づき行動するという点で課題がある。今後児童の自己肯定感を育てるとともに、知識の習得から活用に力を入れ、児童を育成していく。
- ・安全教育の充実を図るために、来年度も年間計画に基づき安全教育を実施し、将来、地域防災を担う子ども達の安全への意識を高めていく。

4 重点的な取組事項						
番号	内容	実施期間				
		29	30	31	32	33
1	学力向上：あふれる意欲と基礎的な学力を身につけた子どもの育成	◎	◎	◎	◎	◎
2	体力・健康：心身ともに健康で、心豊かな子どもの育成	○	○	○	○	○
3	安全意識の高揚：安全への意識をもち、たくましく生きる子どもの育成	○	○	○	○	○

## 5 平成31年度の重点目標

<b>重点的な取組事項－1</b>	「あふれる意欲と基礎的な学力を身につけた子どもの育成」
<b>A 今年度の成果目標</b>	平成31年度区学力調査 目標通過率（学校平均）
基礎的な学力の確実な定着	区学力調査の目標値達成率 75%以上 年度末実施調査の目標値達成率 80%以上
<b>B 前年度の取組み内容</b>	
<b>項目</b>	<b>具体的な方策</b>
○教師の授業力の向上	○小中連携を、西新井中と西新井第二小、鹿浜第一小と4校で連携を行った。板書、ノート指導など足立スタンダード、習熟度別学習の充実に的を絞った授業や協議会を各分科会で行った。報告会も10部会で準備し資料をもとに実施した。
○基礎・基本の確実な定着	○算数少人数・習熟度別授業を1年以上で行った。加えて膨大な量の「東京ベーシック」を全て印刷し、授業や家庭学習で活用した。 ○「きらきらタイム」「すっきりタイム」を実施し、基礎的な内容定着徹底を図った。また水曜日の5校時に「西一タイム」を設けた。 ○読書旬間を年間3回実施し、読書の習慣化の定着を図った。
○教材研究の充実による質の高い授業の実施 一登校から下校まで子どもに寄り添う体制づくり	○会議を最小限に減らすとともに、事務処理のICT化を推進し、児童の補習授業の時間に極力当てさせた。 ○東京ベーシックを国語・算数とも全て印刷し、児童が自由に持ち出し学校や家庭で学習できるようにした。習慣化がだいぶ進んだ。
○家庭教育の充実	○PTAと連携した「家庭学習をがんばろう週間」の3回実施や個に応じた宿題などの試行を行った。 ○低学年20分、中学年40分、高学年60分の家庭学習は80%以上は確保されているが個人差への対応が課題である。
○幼保小の連携	○西新井聖華保育園との教員交流、交流給食や1年生のクラスでの体験学習などを行った。冬季休業中の交流では、数の遊びなどの指導を保育園で小学校6年の担任が授業を行った。
<b>C 前年度の成果と課題</b>	
<p>○足立区学力調査結果における通過率が、平成29年度は76.4%を達成した。しかし、30年度は72.6%と落ち込み元に戻った結果となった。7月からはその原因や分析等を行い区調査の再調査を年間3回位置づけるとともに、放課後の補習、単元が終わってからの診断テスト等、児童の実態を踏まえ行ってきた。昨年度も教職員一体となった学力向上に向けた取り組みを進めてきたが、十分な成果を得ることはできなかった。今後改めて教員一人一人の意識の昂揚を図る。学年によって取り組みの濃淡があり、今後さらに補習授業等の徹底を学校全体として行っていく必要がある。基礎的な学力の確実な定着を目指して、授業力の向上と強い学校力で取り組む姿勢を全教職員で身に付け、対応策に取り組ませていく。</p> <p>○30年度は、西新井中学校と西一小・西二小・鹿一小の1対3の教科連携中心の小中連携を行ってきた。運営や内容の課題等において新しい企画等を取り入れて取り組んでいく必要がある。</p> <p>○私立西新井聖華保育園、チェリッシュ保育園とは教員、児童園児の交流は行った。「遊ぶから学びへ」の内容をもっと進化させるが必要。校長による5歳児への読み聞かせも行った。</p>	

D 今年度の目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
○授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西新井中学校との小中連携で授業公開・協議会を年間9回実施する。</li> <li>・教科指導専門員と管理職の協議会を随時行う。</li> <li>・若手教員の授業参観及び指導を毎月1回以上行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携の中で、各分科会において協働して指導案作りなどを行い、指導力の向上を図る。</li> <li>・教科指導専門員と連携し、若手教員の授業力をアップする。</li> <li>・校内アドバイザー制度を整え、経験豊富な教員（OJT担当者）が若手教員（OJT対象者）を計画的に指導する。</li> </ul>
○基礎・基本の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度の区学力調査で通過率75%以上を達成する。</li> <li>・毎週月曜日の児童朝会の校長講話等を4年以上はすぐに聴いたことや意見を書く取り組みを行う。</li> <li>・そだち指導検討委員会を毎月1回実施する。</li> <li>・読解力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数少人数習熟度別指導（全学年）、1年副担任制・学習支援員の活用などチーム力を生かした指導体制を工夫し強気に推進する。</li> <li>・年間3回の区学力調査の再テストを行い、SP表分析及び活用を図る。</li> <li>・算数・国語の市販テストを全学年で統一し、縦のラインをそろえる。</li> <li>・「書く力」の育成に向けて、読書後の感想文等、定期的を書くことに慣れさせていく。</li> <li>・そだち指導検討委員会を充実させるとともに、そだち指導の活用を図る。</li> <li>・土曜授業で増加した時間を活用し、国語・算数などの教科で定着不十分な学習内容を「きらきらタイム」や「すっきりタイム」を活用し、補充学習する。</li> <li>・「読解スキル」の教材を全学年で実施していく。</li> <li>・夏休みの補習教室「西一サマースクール」を前半7日、後半3日計10日実施し、基礎・基本の定着を図る。基礎学習教室の一層の活用を図る。</li> </ul>
○教材研究の充実による質の高い授業の実施 —登校から下校まで子どもに寄り添う体制づくり—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週最低1回の補習授業の実施</li> <li>・毎週、計画的に放課後の補習を学年で計画し実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議など会議を精選し、教材研究の時間を確保するとともに、放課後の補習授業を徹底して行う。</li> <li>・職員打ち合わせを児童の下校後に実施し、登校から下校まで子どもに寄り添う体制をつくる。</li> </ul>
○家庭教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習を低学年20分、中学年40分、高学年60分を目安に達成させる。（家庭学習がんばろう週間に調査）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた家庭学習を行わせるために、東京ベーシック、次へのステップの活用を図る。</li> <li>・PTAと連携した「家庭学習をがんばろう週間」及び「いきいき生活週間」の実施を通して、家庭学習及び基本的な生活習慣の定着を図る。</li> </ul>
○幼保小の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士、教員との交流研修年間2回ずつ実施する。</li> <li>・保育参観を全教員対象に年間1回実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立保育園2園との交流及び連携活動を通して1年生の円滑な学校生活への移行を進め、移行期の指導を充実させる。</li> <li>・「遊びから学びへ」という視点で、保育参観・研修を冬季休業中に行う。</li> <li>・校長の講話、読み聞かせを実施。</li> </ul>

重点的な取組事項－２		「心身ともに健康で、心豊かな子どもの育成」
A 今年度の成果目標		達成基準
心身ともに健康な児童の育成		目標実現に向けた4つの項目の総合評価4段階B評価以上
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
○心身の健康づくりの奨励	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「すくすく教室」「すこやか会議」各年1回以上開催、歯磨きの取組を給食後毎日実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の健康づくりを目指し「すくすく教室」、「すこやか会議」、給食後の歯磨きの取組などを年間通して行う。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとびや持久走などの運動及び体力向上の取組を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長なわ、短なわ、持久走週間などを実施し、外遊びの奨励などへの取組を通して、体力向上を図るとともに運動する喜びを味わわせる。</li> </ul>
○生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いきいき生活週間」の取組を年3回実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAと連携した生活点検の取組「いきいき生活週間」を実施。早寝、早起き、朝ごはんの習慣を身につける。</li> </ul>
○豊かな体験活動による思いやりの心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAや地域と連携し、西一ふれあい祭りの企画・運営を行う。</li> <li>・開かれ主催の漢字検定の参加を130名以上目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな体験を通して思いやりの心を育てる。年間計画に基づき「凧まつり参加」「西一ふれあい祭り」「親子漢字検定」など実施する。</li> </ul>
○「食」への自己管理能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ランチルームでの食に関する指導を全学級年3回実施する。本年度も残滓率2.0%以内を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビュッフェ給食などにより「食」への関心を高め、食への感謝の気持ちを育てる。</li> <li>・ランチルームのクラス年3回活用。</li> </ul>

重点的な取組事項－３		「安全への意識をもち、たくましく生きる子どもの育成」
A 今年度の成果目標		達成基準
児童の安全意識の向上		目標実現に向けた2つの項目の総合評価4段階B評価以上
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
○保護者や地域関係機関と連携した保健・安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練を年11回実施するとともに6年救命救急訓練(AED操作訓練)を前期に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に関する指導を保護者や地域関係諸機関と連携して行い児童の防災への意識を高める。</li> <li>・放課後キッズの事業とも連携し、避難訓練を2回行う。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物乱用防止教育6年1回、セーフティ教室を低・中・高学年で指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防署・消防団・消防ボランティア・警察署など関係諸機関と連携を図る。</li> </ul>
○地域安全ボランティア・保護者と共に児童の登下校の安全を確保する ※あいさつの励行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々の毎日の登下校の見守り</li> <li>・教職員、PTAの登下校の見守り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域安全ボランティアによる登下校の見守りを毎日実施してもらう。集団下校訓練を年間2回行う。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回の登校指導、あいさつ指導</li> <li>・「あいさつ保護者アンケート」AB評価85%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の登校指導及びあいさつ指導を行い、児童の登校状況を確認するとともにあいさつ運動を進める。</li> </ul>